

審 議 経 過

No.

（1）伊万里市の現況整理について（説明資料 P2～34）

資料を用い、伊万里市の現況整理について説明を行った。

- ・都市計画マスタープランとは、目指すべき都市の将来像とその実現に向けたまちづくりの方針をまとめた計画を指す。
- ・立地適正化計画とは、安心して暮らし続けられるまちを実現するために『コンパクト・プラス・ネットワーク』の考えに基づいたまちづくりを目指すための計画を指す。
- ・2000年以降、伊万里市の人口は減少傾向にあり、2045年までに約3万8千人まで減少する見込みであり、世帯当たりの人口の減少から、核家族化が進行していると考えられる。
- ・64歳未満の年少人口と生産年齢人口が減少している一方で、高齢化率は増加しており、少子高齢化が急速に進行している。
- ・都市計画内外ともに人口が減少しているが、都市計画区域内の人口の割合は約85%まで増加し、中心部に人が集中していることがわかる。
- ・地域別人口の推移を見ると、中心部の旧伊万里地区や二里町の人口が増加している一方で、山代町や波多津町、大川町などの山間部は人口が急速に減少している。
- ・中心部の用途地域内に人口が集中しており、それ以外の地域は全体的に低密度である。
- ・2010年から2020年の間の人口密度の増減を見ると、用途地域の縁辺部や立花地区では人口が増加しているが、中心部の伊万里駅周辺では人口が減少している。二里町や黒川町では局所的な人口増加が見られる。
- ・都市計画区域の縁辺部や山間部で人口の大きな減少が見込まれる。中心部の伊万里駅周辺では、用途地域の縁辺部と比較して、人口が大きく減少するおそれがある。
- ・人口流動については、夜間人口に比べて昼間人口が多く、周辺市町村からの通勤者が多い。特に有田町・唐津市・武雄市からの往来が多い。
- ・用途地域内や沿岸部には建物用地が集中しており、市街地を形成している。
- ・用途別の割合は、都市計画区域外と用途白地地域では自然的土地利用が多いが、用途地域内では都市的土地利用が多く、市街化が進んでいる。
- ・建物の新築は用途地域内とその縁辺部に集中している。郊外では国県道沿いや駅周辺でも、住宅等の新築建替えが活発である。

- ・空き家率は増加傾向にあり、2018年には全国平均を上回っている。都市的空地は用途地域内とその周辺に点在し、特に伊万里駅周辺の中心部に集中している。
- ・伊万里市では、国道202号、498号、204号が道路網の骨格を形成しており、西九州自動車道も部分的に供用が開始されているが、市道が道路の大部分を占め、その改良率は約54%にとどまっている。
- ・JRとMRの乗降者数は減少傾向にあり、路線バスも同様に、コミュニティバスの一部路線を除き、ほぼ全ての路線で利用者が減少している。
- ・伊万里市の公共交通のカバー率は、市内人口の8割であり、公共交通のカバー圏域（駅から500m、バス停から300mの範囲）に含まれない地域が見受けられる。
- ・商業施設は国道沿いと中心部に集中している。人口カバー率は6割以上であり、将来的に上昇する見通しである。
- ・子育て施設も市中心部に立地が集中しており、人口カバー率は6割以上であるが、将来的には減少する見通しである。
- ・医療施設及び福祉介護施設は、近隣の施設が1件以下の地域が存在し、人口カバー率は6割以上で将来的には上昇する見通しである。
- ・1次産業は事業者数と構成比が減少傾向にある。2次産業は事業者数が減少し、構成比は横ばいである。3次産業は事業者数が横ばいである一方、構成比は増加傾向にある。
- ・伊万里港における輸出入額は、入港数と輸入額が増加傾向にあり、2021年には過去最大を更新している。
- ・洪水災害について、沿岸部で3m未満の浸水が見込まれる地域が存在し、松浦川沿いでは3～5m未満、一部では5～10m未満の浸水が想定されている。
- ・高潮・津波災害では、沿岸部で3～5m未満の浸水が見込まれ、津波による2m以上の浸水が予想される地域がある。
- ・土砂災害については、市全域に警戒区域が分布し、特につつじヶ丘などの北側用途地域では特別警戒区域に指定されている地域もある。
- ・2023年に景観計画を策定し、里地区と大川内山地区で景観形成に向けた取組を進めている。
- ・肥前窯業をはじめとする歴史・文化に関連する資源が点在し、沿岸部には玄海国定公園がある。

(委員)

- ・人口カバー率について説明をしてほしい。

(事務局)

- ・人口カバー率は、メッシュ分析に基づいて算出され、100m四方のメッシュ内に居住する人口を把握するものである。例えば、商業施設の場合、人口カバー率が高いとその地域に施設が十分あることを意味し、低い場合は暮らしにくい町である可能性を示す。

(委員)

- ・将来の人口分布を示していただきたい。特に立花地区の用途地域外エリアでは人口が増加しており、用途地域の指定や立地適正化計画における誘導区域の検討にも活用できる。

(事務局)

- ・将来の人口分布について資料作成を進める。

(委員)

- ・カバー率が上昇するということは、つまり、カバー範囲内の人口減少よりも範囲外の人口減少の方が大きいということか。

(事務局)

- ・その通りである。特に郊外ほど減少人口が顕著になることが考えられる。

(委員長)

- ・資料P16「中心部では用途地域外縁部と比較して、人口が大きく減少する恐れ」とはどのような意味か。

(事務局)

- ・伊万里駅周辺部では、将来的に人口が20～30%減少する可能性がある一方、用途地域の外縁部では、人口の増加が見込まれる箇所がある。これは、無秩序な市街地の拡大を示し、地価の安さによる人の流出とまちなかの空洞化の傾向があることを意味する。

(委員長)

- ・将来については理解した。現状はどうか。

(事務局)

- ・現状においても、中心市街地では人口が減少する一方で、用途地域の外縁部では住宅が増加しており、人口増加が見られる。

(副委員長)

- ・人口カバー率は、基本的に直線距離に基づいて算出していると思うが、道路網が整備されていない地域では、直線距離と道路距離とでは結果が異なる場合がある。その点をどの

ように考えているか。

(事務局)

- ・今回示した結果は、市全体の傾向を見るための目安となる状況を示している。ご指摘の通り、地区レベルで分析した場合、異なる結果が出る可能性がある。また、分析方法として、単純な円形ではなく、道路の形に沿ったカバー圏域の分析も可能である。

(副委員長)

- ・地域別構想では、道路距離に基づくカバー率分析を実施する可能性はあるのか。

(事務局)

- ・可能性はある。

(2) 市民意向の把握（市民アンケート調査）結果について（説明資料 P35～51）

資料を用い、市民意向の把握について概要説明を行った。

- ・アンケートは市内在住の18歳以上の方を対象に郵送とWeb回答の2つの手段で実施し、配布数2000票に対して約36%となる711票の回答をいただいた。
- ・現在の生活の満足度と、将来の生活における重要度について尋ねると、公共交通の利便性、働く場所の充実、駅周辺の賑わいなどについて改善が求められている。
- ・一方、上下水道の整備状況、治安・防犯への安心感、自然環境の豊かさなどは、維持が重要である。
- ・各施設への主な移動手段は、自家用車・バイクであり、ほぼ全ての施設で過半を占める。また、公共交通の利用は最も多い施設でも1割程度である。
- ・公共交通を利用しない理由として、「運行便数が少ない」「運行時間と合わない」「目的地までの運行路線が無い」などがある。
- ・徒歩圏内に充実してほしい都市機能は、「食料品・日用品店」が最も多く、次いで「病院・診療所」、「郵便局・銀行」という結果になった。
- ・商店街や伊万里駅周辺では、「飲食店」「専門店」「娯楽施設」等の都市施設の充実を求める声が多かった。
- ・「今の場所に住み続けたい」と感じる人は約58%であった。
- ・引越したい主な理由として、「交通利便性の低さ」「買い物の不便さ」が挙げられた。
- ・伊万里市全体や居住地域の将来像を尋ねたところ、「店舗が充実した買い物がしやすいまち」が最も多く、次いで「医療・福祉などのサービスが行き届いたまち」、「就業場所がたくさんあり活気のあるまち」という結果になった。
- ・まちなかの賑わい創出、公共交通、公園緑地整備、景観、防災の各分野における重点的な取組に関するアンケート結果は以下のとおりである。

【まちなかの賑わい創出】

「駅通商店街などの中心市街地の活性化」「まちなかにアクセスしやすい道路整備・公共交通の充実」「交流できる施設・広場の整備」

【公共交通】

「コミュニティバスの利便性向上」「バス路線・便数の見直し」「駅周辺の駐車場・駐輪場の整備」

【公園・緑地の整備】

「子どもや高齢者など誰もが利用しやすい身近な公園・緑地の整備」「カフェや書店などが併設された公園」

【景観の保全・形成】

「山なみや河川、海など自然景観の保全・形成」「歩いて楽しい商業地としての賑わいを感じる景観の形成」「伝統や文化を伝える歴史的なまちなみの保全・形成」

【防災対策】

「地すべりなどの土砂災害対策」「河川整備などの洪水対策」「避難所の機能・設備向上」
・将来のまちづくりについてご意見やアイデアを伺ったところ、「商業の充実」が最も多く、次いで「教育・子育て・福祉環境の充実」、「公共交通の利便性向上」に対する意見が多く寄せられた。

(委員長)

・「重点的に進めていくべき取組」の選択肢は、誰が決めたのか。P37「市民の満足度・重要度」における重要度と満足度が高い項目が選ばれているわけでもなく、伊万里市としての意向が反映されているように感じられる。

(事務局)

・補足資料2 P63では、土地利用について、今後どのようなことを重点的に進めていくべきかを伺った。それに対する回答として市民が選択肢の中から選んだものを示している。
・まとめ方は今後検討する。

(委員長)

・居住地や年齢によって回答の特徴が異なるのではないか。

(事務局)

・各地区並びに年齢層ごとのアンケートの配布数は調整している。
・補足資料2では、地区ごと年齢ごと性別ごとの分析も行ったクロス集計結果をまとめている。今後、地域別構想を検討する中で、結果を説明する。

(事務局)

・補足だが、立地適正化計画は創設から間もない計画であるため、恐らくどこの市町も明確な効果は出ていない。しかし、計画策定することで国から補助が受けられるため、計画を策定している市町村は全国で500都市以上と増加傾向にある。

(副委員長)

・P37のタイプⅣは、平均値の設定によって印象が変わってくるため、タイプⅣは優先度が

低いという表現は適正なのか。

(事務局)

- ・表現について修正を行う。

(委員)

- ・伊万里市は、他都市と比べてどのような傾向があるのか。

(事務局)

- ・伊万里市の特徴として特筆すべきところは、公共交通機関の満足度が非常に低いことだと感じる。一方、道路に関する不満は他の市町村に比べて少ないという印象である。

(委員)

- ・説明資料P49「歩いて楽しい商業地としての賑わいを感じる景観の形成」の回答割合が高いが、これは駅前の賑わいを指しているのか。ショッピングセンターの設置を希望する回答が含まれているのではないか。
- ・駅前の活気が減少しているため、活性化策を検討する必要があるが、関連する内容が課題に記載されていないため、具体的内容を明記してほしい。

(事務局)

- ・補足資料P76のクロス集計によると、商店街の活性化を望む意見と郊外のショッピングセンターを望む意見が含まれる可能性がある。また、中心市街地の住民は地域の活性化を望んでいると考えられるが、若い世代はそれに加えて他の要望も持っていることが推測される。

(委員長)

- ・今回のアンケートでは、ある程度、満足している方の意見が多く含まれている可能性がある。過去実施したアンケートから市民の意向の変化を分析する必要があると思う。

(事務局)

- ・総合計画策定時にアンケートを実施したが、都市計画マスタープランに関するアンケートは、今回が初めてである。他の計画に関するアンケート結果も確認し、特筆すべき点があれば提供する。

(3) まちづくりの課題抽出について（説明資料 P52～55）

資料を用い、まちづくりの課題抽出について概要説明を行った。

- ・人口における課題は「中心市街地や生活拠点における人口密度の維持に向けた取組が必要」「人口増加を図るため、定住促進に向けた施策の展開が必要」の2点が挙げられる。
- ・土地利用における課題は「郊外における無秩序な開発を抑制し、地域の実情に即した適切な土地利用へと誘導する取組が必要」「空き家・空き地などの低未利用地の有効活用・適

正管理に向けた施策の展開が必要」の2点が考えられる。

- ・都市施設（道路網）の整備状況における課題は、「西九州自動車道の全線開通に向けた取組の推進が必要」「市内の円滑な移動を可能とする道路・交通体系の構築に向けた取組が必要」「公園・緑地の適正な配置ならびに管理・活用に向けた施策の展開が必要」の3点が考えられる。
- ・交通体系における課題は、「地域間・都市間を結ぶ公共交通ネットワークの維持・機能強化に向けた施策の展開が必要」「自動車に過度に頼らない生活環境の構築に向けて、誰もが快適に公共交通を利用できる環境の整備が必要」の2点が考えられる。
- ・都市機能の立地、産業・地域経済における課題は、「生活を支える拠点として、伊万里駅周辺における拠点機能の向上に向けた取組が必要」「郊外や中山間部においても、暮らしに必要な機能が身近に確保された生活環境の形成が重要」「子育て支援施設や子供が安心して遊べる施設の充実など、子育て環境の向上に向けた取組が必要」「基幹産業・地域産業である農業・畜産業・商工業などの活性化に向けた取組が必要」「伊万里港の更なる集荷活動と航路の拡充に向けた取組が必要」の5点が考えられる。
- ・財政における課題は、「将来歴な財源の縮小を見据え、既存ストックの維持管理・運営費の縮減に向けた取組が必要」「市税の減少、扶助費のさらなる増加を見据え、安定的な財源の確保に向けた取組が必要」の2点が考えられる。
- ・災害対策における課題は、「人的・物的被害の発生が懸念される土砂災害、洪水、津波などの災害に対するハード・ソフト両面での防災・減災対策が必要」が挙げられる。
- ・景観における課題は、「地域の特性に即した景観形成の取組が必要」「肥前窯業圏をはじめとする歴史・文化を示す資源の保全・活用に向けた取組が必要」「国定公園をはじめとする豊かな自然環境の保全・活用に向けた取組が必要」の3点が考えられる。

(委員)

- ・「人口増加を図る」のは、現状では非現実的であるため、1つ目と2つ目の課題は具体的な地域を指定した方がよい。
- ・土地利用における「郊外」という言葉の使用について、伊万里市における具体的な場所を明確にする必要がある。

(事務局)

- ・誤解の無いような表現に改める。

(委員)

- ・伊万里駅周辺の拠点性向上の意義は公共交通機関がなければ薄れてしまう。また、現状、伊万里市の移動手段は主に自家用車に依存しているため、公共交通の維持が重要である。交通体系について、10年・20年後の公共交通機関のあり方について関係者の方々の考えを聞きたい。

(委員)

- ・JR九州としては、市民がしっかりと鉄道利用をしていただければありがたい。
将来の交通体系がどうあるべきかについてはさまざまな議論があってもよいのではと考える。

(委員)

- ・松浦鉄道は、燃料の高騰や人件費の増加などの課題があるものの、自治体の補助を受けて現状維持を図っている。また、利用促進に向けた活動も行っている。
- ・公共交通の整備を不十分と感じているのは、大川町のように線路沿いでない地域住民が多い。そして運行便数の少なさについても検討が必要である。
- ・現況調査とアンケート結果には乖離が見られる部分があるため、様々な角度から分析する必要がある。

(委員)

- ・現状のコミュニティバスの利用者数の増加傾向を踏まえ、コミュニティバスの整備を重点的に進めるべきだと考える。

(委員)

- ・都市施設の整備状況における課題に「西九州自動車道の全線開通の取組の推進」とあるが、具体性に欠けるため、アンケート結果や現状との関連性を明確にする必要がある。

(事務局)

- ・西九州自動車道の全線開通の必要性については補足資料のP79に記載している。

(委員)

- ・現状、課題、方針と具体的な取組という、一連の流れを明確にしてほしい。
- ・物流発展という点で道路の重要性は理解できるが、他の地域との交流とまちづくりがどう関連するのかイメージできない。

(委員)

- ・西九州自動車道については、物流支援の役割と地域活性化における観光振興の有効性を考慮し、まちづくりと連携した内容を補足してほしい。

(委員長)

- ・西九州自動車道整備は、まちづくりと連携し、広域的な視点で進めるべきである。

(事務局)

- ・より具体的に、まちづくりと絡めた内容を記載する。

(委員)

- ・市内の移動手段の確保は高齢者にとって重要であるため、マスタープラン策定においては、この点を重点的に考慮してほしい。
- ・たとえ自宅に車があっても、家族全員が日中働いている場合は意味がない。

(委員長)

- ・まちが魅力的になれば定住者が増え、3世代が生活できる環境が整う可能性がある。暮ら

し全般でプラスになる方向を検討してはどうか。

(委員)

- ・伊万里駅には商業施設が少なく、郊外に行くにも駅から先の交通手段がない。また、車を持っていても駐車場が豊富にある郊外に行くため、駅周辺の活性化は需要がなく、郊外の商業施設へのアクセスを向上させるべきだと思う。

(委員)

- ・アンケートの配布数2000、有効回答率35.6%という数値は適正なのか。

(事務局)

- ・一般的に、アンケートの回収率は3〜4割が妥当とされており、配布数は、市民の総意と認められる配布票数に対する回収票数が、統計学的に定められているため、それに基づいて設定している。

(委員)

- ・年齢別や居住地別の配布数は分かるのか。

(事務局)

- ・アンケート配布数は、地区別・年齢別に設定しているため、示すことは可能である。

(委員)

- ・次回、その集計を示してほしい。
- ・今回のマスタープランには、中心市街地の活性化に関する内容を盛り込んでほしい。

(委員)

- ・私も中心市街地の活性化について非常に懸念している。松島地区の大規模商業施設により中心市街地からの人の流出が心配され、郊外の商業施設と中心市街地の機能を上手く分け、特色のある施設をまち周辺に立地させる工夫が必要である。

(委員)

- ・アンケートの配布数2000票は、人口に対して適切なのか。

(事務局)

- ・配布数2000票は、統計学的に伊万里市の人口から見ても担保されたデータとして扱ってよい数値である。

(委員)

- ・P53土地利用について、無秩序な開発と適切な土地利用について具体的に教えてほしい。

(事務局)

- ・無秩序な開発は、利用しにくいエリアの開発や、中心部に集約すべき機能の分散などを指し、公共施設の整備困難や無駄な費用発生の可能性を含んでいる。

(委員)

- ・伊万里市の用途地域の見直しについて、ライフスタイルや賑わう場所の変化を考慮し、具体的な課題を明記してほしい。

(委員)

- ・まちづくりは、農業振興地域をしっかりと確保した上で進めてほしい。

(委員長)

- ・市民アンケートを通じて市民の意向を抽出することに加え、伊万里市の強みを把握し、それを伸ばすことも、今後のまちづくりにおいて有効な戦略であると思う。

(事務局)

- ・アンケート結果からは、自然環境、観光振興、歴史的な文化や街並みなど、市民が満足している項目が伊万里市の維持すべき良い点であり、これらは伊万里市の対外的な魅力として示せる要素であると考えられる。

(委員長)

- ・今後、都市計画マスタープランや立地適正化計画策定に活かしてほしい。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。